



今や、世の中は国際化社会。猪名川町でも、外国人講師による英語の学習が小学校から始まっており、子ども達にとって外国がより身近になってきました。また、町内の中・高校生の中には、町や学校を通してオーストラリア・バララット市への留学や派遣を体験した子ども達もいます。

今回は、その子ども達と町内で行われている留学・派遣制度について紹介します。

町内の中・高校生がチャレンジできる身近な公的留学・派遣制度として、町教育委員会の「中学生国際交流推進事業」、猪名川高校の「オーストラリア姉妹校交流・留学制度」、町国際交流協会の「高校生姉妹都市派遣事業」があります。

これらの制度が設立されたきっかけは、昭和63年、町と



ワイルドライフパーク（野生動物の公園）を訪れた第12回中学生姉妹都市派遣団の皆さん

中学生国際交流推進事業

町教育委員会は、毎年、町内3中学校の2年生をバララット市に派遣しています。希望者の中から作文・面接などにより12人が選考され、夏休み期間中の約10日間、ホームステイをしながら、地元の学校を訪れ生徒達と交流します。経費の3分の2は町が補助

します。昨年の派遣で12回目となり、これまでに約1200人の生徒達が貴重な体験をしました。

日本の文化を紹介

昨年、派遣された生徒達は訪問した学校で、かるたや折り紙と一緒に遊んだり、出発前に練習を重ねた「よさこいソーラン」の踊りを披露するなど、日本文化の紹介をしました。

また、ホストファミリーに白玉団子やお好み焼きを作ってもらったり、浴衣姿でお茶をたてたり、手品をみせるなど、各自の工夫で交流を深めました。

団長の浦東弘武君は「バララット市の人達は大人も子どもも皆明るく、誰もが笑顔で声を掛けてくれて、とても嬉しかったです」と笑顔で話しました。

子ども達の国際交流 姉妹都市でホームステイ体験！

高校生 姉妹都市派遣事業

町国際交流協会は、住民レベルで国際交流を深めることを目的に、個人や団体などの有志によって運営されています。

毎年9月、協会の主催で「猪名川町英語スピーチコンテスト」が開催されます。このコンテストの高校生の部で入賞した生徒2人は、副賞として、バララット市へ約2週間派遣されます。昨年、賞を獲得した鎌田真梨子さん（つじが丘）と南方望さん（白金）は13回目の派遣生となります。2人は「たくさんの人と出会って多くの思い出をつくって

バララット市からやって来た2人の高校生

協会は、昨年12月に設立15周年を記念してバララット市より高校生2人を招待しました。2人は、バララット市で開催された「日本語スピーチコンテスト」で入賞した高校生1年生のアドリアーナ・カーソンさんとデイヴィット・ケリーさん。滞在中、幼稚園・小中高校を訪問し、図工展の鑑



賞、うどん作りやしめ縄作りに参加するなど、さまざまな体験をしながら生徒達との交流を深めました。



空中さん宅（写真上）でホームステイしたアドリアーナ・カーソンさんは、滞在中のスケジュールや記録を日本語で書きました。カーソンさんは「浴衣を着たり、日本のお風呂に入ったり、回転寿司を食べたり、楽しい経験ができました。」

また必ず猪名川町を訪れます」と話しました。空中さんは「社交的な彼女から教わるのがたくさんありました」と微笑まれました。

また、デイヴィット・ケリーさんは、ホームステイ先の開原さん宅（写真下）で、兄弟達の兄のように、一緒にゲームやサッカーをして過ごしました。ケリーさんは「バララットにはない日本の学校の給食制度に驚きました。将来は、日本で英語の先生になりたいです」と話しました。開原さんは「お互いに言葉を教えあったりすることで、息子達も英語に興味を持つたようです」と喜ばれていました。

猪名川高校 姉妹校交流・留学制度

猪名川高校の生徒達が、バララット市にあるマウントクリア校を初めて訪問したのは平成3年のこと。以来交流を重ね、平成12年、両校は姉妹校提携を結びました。現在では毎年交互に生徒を派遣し合い、絆を深めています。同校からの派遣は夏休み期間中の約10日間、ホームステイをしながら学校訪問などを行います。また、同校は昨年より、マ

夢に向かって前進

1年間の留学を終えて、昨年末に帰国した1期生の6人は、生きた英語を学び、国際的視野を広げることが目的に参加しました。この中には留学を目的に、

猪名川高校に入学した人もいます。6人は「語学はもろもろ、自分の考えをしっかりと伝えることの大切さを学びました。将来の夢は語学力を生かせる仕事に就くことです」と力強く話しました。同校の先生は「留学を経て、みんな積極性が増えました。他の生徒達のように刺激になりそうです」と語られました。一緒に出発した生徒の1人は引き続きバララットに残り、勉強を続ける予定です。

後編 編集 後記

お話を伺った子ども達が口をそろえて言っていたのは「もつと長く滞在したかった」という言葉です。柔軟な心を持つ子ども達にとって、海外で得た経験は、すばらしいもので、将来きつと生かされることでしょう。

これらの体験は、子ども達を応援し送り出したご家族や、温かく迎え入れたホストファミリーの、愛情と支えがあってこそできるものだと感じました。

【いながわ特派員】